

避難訓練をしよう

1 安全に避難するには

あわてず、落ち着いて

火災が発生していることがわかったら、あわてずに、落ち着いて安全な場所（建物の外）などに避難しましょう。

2 避難するときの注意事項

(1) 余計な荷物は持たない

持ち運ぶ物が多いと、その人自身の避難の支障になります。



(2) ハンカチやタオルを鼻と口に当てて避難する

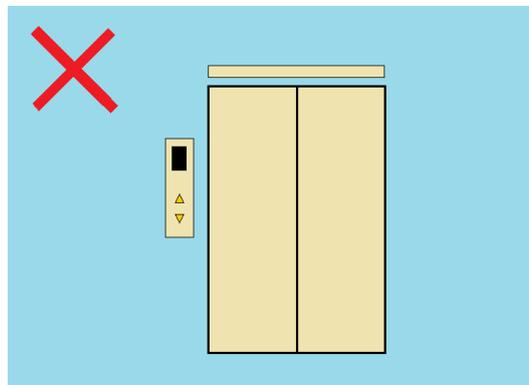
煙には有害なガスが含まれているので、煙を吸い込まないようにハンカチやタオルを鼻と口に当てて避難してください。

時間的に余裕があれば、水に濡らして固く絞ったものを使用してください。



(3) エレベーターは使用しない

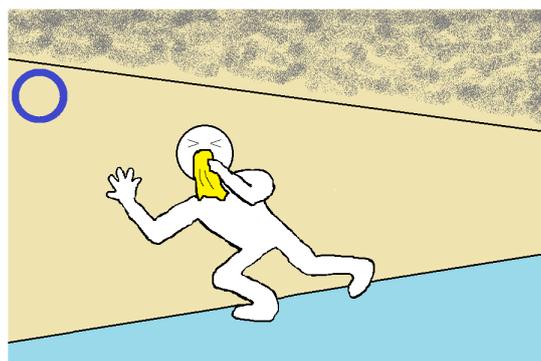
エレベーターの設置場所は、煙突のように建物の上から下までが空洞で繋がっていて、竪穴になっています。そのため煙がエレベーターシャフト内にまで侵入しているおそれがあるので使用しないでください。



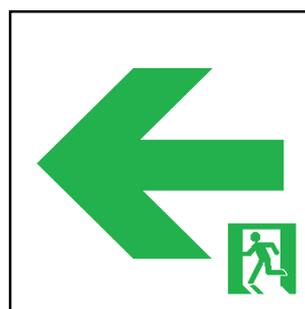
(4) 姿勢を低くして壁伝いに避難する

避難の際、煙により視界が悪くなる場合があります。その場合は、できるだけ煙を吸い込まないように身を低くして、手を壁に添えて、壁伝いに避難してください。

なお、建物に誘導灯が設置されている場合は、誘導灯を目標に進んでください。



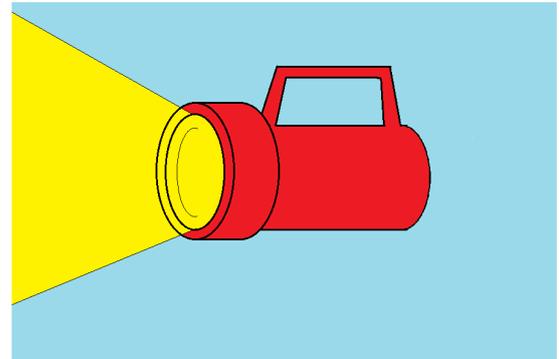
避難口を示す誘導灯



避難の方向を示す誘導灯

(5) 照明器具を携行して避難する

火災時は停電して建物内が暗くなっていることがあります。大きな建物だと非常用の照明装置があるので最低限の明るさは確保されているが、念のため携帯用の照明器具を携行して避難すると安心です。



3 どこに避難すればいいか

避難は、**地上の安全な場所**へ避難することがベストです。

しかし、階段を使用するのが困難な場合などには、階段を使用せずに、同一階の中で火災に対して安全な場所に避難してください。

その場合の避難先

- バルコニー
- 扉を閉めることができる階段室前室、
- 火元から見て防火扉の向こう側廊下との間の扉が閉鎖できる居室※
(※スプリンクラー設備のある建物の場合)

4 日ごろから心がけておくこと

いざという時の避難経路を確認しておく

万一火災が発生した時には、どの経路を通れば安全に避難することができるか、あらかじめ確認しておきましょう。

訓練は以上です。お疲れ様でした。